Corporate Philosophy

ウイルス学に立脚した創薬技術を駆使して、
がんや重症感染症の治療法にイノベーションを起こし、世界の医療に貢献したい

1. 私たちが求めて止まないのは、医療のイノベーションです。そのために、普段からの医学研鑽を惜しみません。
2. 少人数で大きな仕事を成し遂げてこそ、アドベンチャーと言えるでしょう。大企業に出来ないことこそ、私たちが成し遂げるべき目標となります。
3. いくら儲かるからではなく、どれだけの人を救えるかに価値観をもち、その結果としての利益を追求してゆきたい。
4. 経営者と社員だけではなく、株主様ともこの意識を共有してゆきたい。
5. 常に透明な経営を心がけ、定期的な情報公開を行ってゆきます。
6. 社会貢献を目指す社会人として、常にコンプライアンスの遵守を心がけます。

Company Profile

会 社 名　オンコリスバイオファーマ株式会社

設　　立　2004年3月18日

資 本 金　30億円（2022年5月31日現在）

代　　表　代表取締役　浦田泰生

事業内容　腫瘍殺傷ウイルスの研究・開発・製造・販売・輸出入
医薬品及び癌検査薬の研究・開発・製造・販売・輸出入

取引銀行　三井住友銀行　日本政策金融公庫　みずほ銀行
三菱東京UFJ銀行　神戸信用金庫　みなと銀行

上場市場　東証グロース（証券コード：4588）

Access

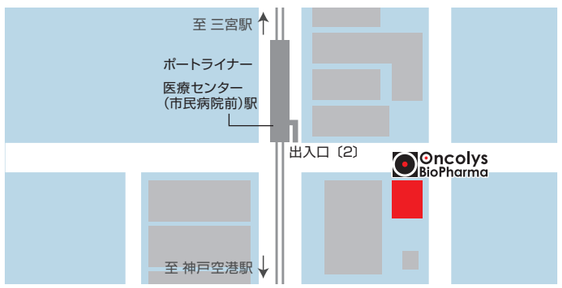
本社

〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-1-28　虎ノ門タワーズオフィス10階
TEL.03-5472-1578（代）　FAX.03-5472-1488

神戸リサーチラボ

≪オフィス≫　〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6-7-4　HI-DEC 2階
TEL.078-303-1380　FAX.078-303-1381

≪ラボ≫　〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6-7-4　HI-DEC 3階



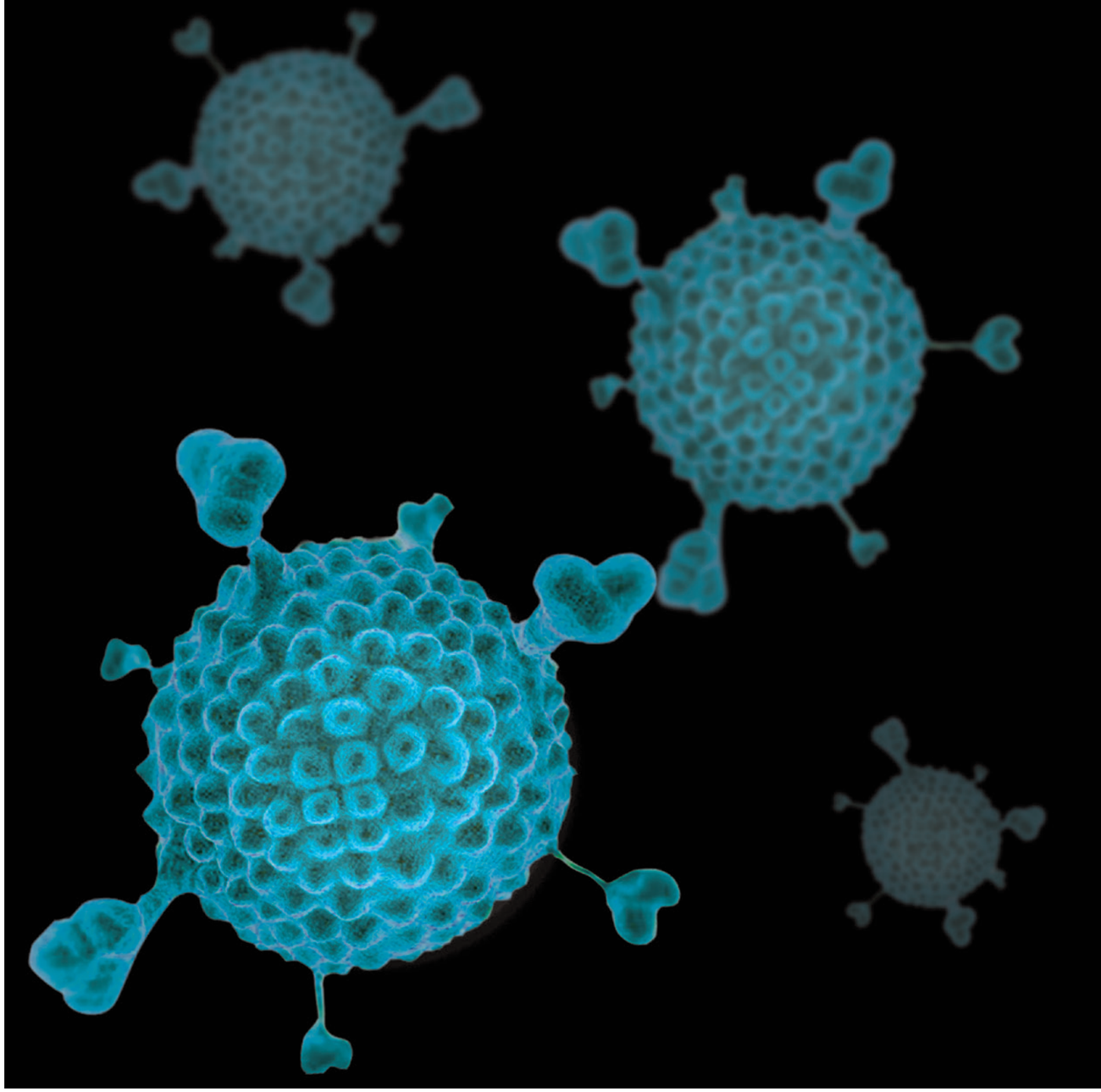
Oncolys USA Inc.

343 Thornall Street, Suite 505
Edison, NJ 08837
General Phone number: +1 732 -662-9880

https://www.oncolys.com/

2306/1704(B)

Powering Future Oncotherapy



Oncolys BioPharma

— Company Profile —

CEO Message

難病治療の歴史に足跡を刻みたい

オンコリスバイオファーマ株式会社
代表取締役社長 浦田泰生

オンコリスバイオファーマは、研究開発先行型の事業を展開する創薬バイオ企業です。2004年、「ウイルス学に立脚した創薬技術を駆使して、がんや重症感染症の治療法にイノベーションを起こし、世界の医療に貢献したい」というビジョンのもとに、設立しました。

がんと重症感染症を事業領域としているオンコリスバイオファーマは、業界でも類を見ない『ウイルス創薬企業』として成長を目指しています。主要パイプラインであるがんのウイルス療法『テロメライシン』は、治療の難しい局所進行性の食道がんをターゲットとしています。特に高齢者には嚥下障害や食道閉塞も出やすいため手術不適用になるケースも多く、治療の選択肢が非常に限られます。テロメライシンはそのような手術不適応の食道がんに対し、まったく新しいタイプの治療法として開発が進められており、食道がんにおけるFirst-in-Classの腫瘍溶解ウイルスとなることを目指しています。それ以外にも、より強力な次世代テロメライシンとしてOBP-702や、がんの早期発見・再発予測を行うテロメスキャンを揃え、がんの発見から治療までを網羅しています。さらに、HIV感染症治療薬として開発してきたOBP-601 は、様々な研究の結果、神経難病治療薬として開発が進められています。オンコリスバイオファーマは、各パイプラインの製薬企業へのライセンス活動を推進して商業化を早め、さらに新規パイプラインの創製にも取り組んでゆきます。創薬開発は、日本国内にとどまらず、米国子会社のオンコリスUSA社とも連携し、世界の医療や研究機関を通じて最新の化学情報に基づいて進めてゆきます。

「オンコリスバイオファーマなしでは医療現場が、ひいては患者様が困る」、そのような存在感ある創薬を展開することを基本方針とし、いち早く医療現場の課題解決に貢献してゆきたいと考えています。そして、一つひとつの新薬開発が難病治療の進歩の確かな足跡となることを目指し、その開発に邁進してまいります。

Outline of our pipelines

開発品	対象疾患	臨床試験（治験） 前臨床	Phase Ⅰ	Phase Ⅱ	Phase Ⅲ	申請	承認
Telomelysin テロメライシン OBP-301 (suratadenoturev)	食道がん	先駆け審査制度指定			2024年国内承認申請予定		
		オーファン指定					
	胃がん						
	肝細胞がん						
OBP-601	PSP※1						
	C9-ALS※2 /FTD※3			Transposon社 導出済			
	AGS※4						
OBP-2011	新型コロナウイルス感染症						
OBP-702	固形がん						

開発品	対象領域	臨床研究	臨床性能試験	申請	承認
TelomeScan OBP-401	CTC検出				

※1：進行性核上性麻痺、※2：筋萎縮性側索硬化症、※3：前頭側頭型認知症、※4：アイカルディ・ゴーティエ症候群

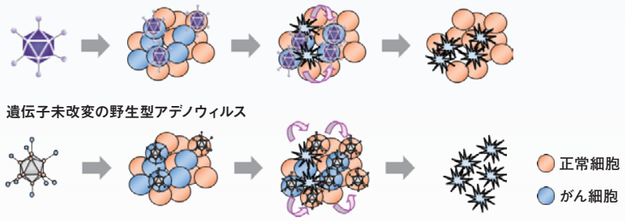
OBP-301（Telomelysin）※国際一般名称：suratadenoturev

Telomelysin®

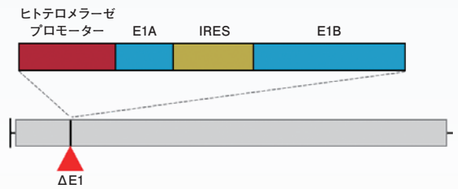
テロメライシン（OBP 301）は、風邪の原因となる5型のアデノウイルスを遺伝子改変した、がんのウイルス治療薬です。遺伝子改変されたテロメライシンは正常細胞では増殖せず、がん細胞内で特異的に増殖し、がん細胞を破壊させる機能を有しています。テロメライシンは、この作用を利用して食道がんの局所を治療する、まったく新しい発想の治療法として開発が進められています。アデノウイルス自体は風邪のウイルスの一種であることから、テロメライシンの副作用は軽度～中程度の発熱を伴った風邪様症状が主であり、化学療法で見られるような重い副作用は報告されておりません。今後は食道がんのみでなく、胃がんや頭頸部がんなどへのがん種の適応を拡大してゆきます。

遺伝子改変したアデノウィルス（テロメライシン）

遺伝子未改変の野生型アデノウィルス



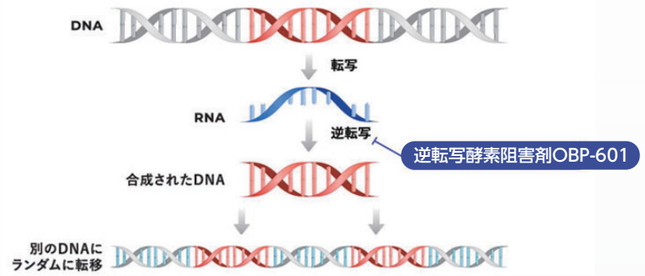
テロメライシンの遺伝子構造



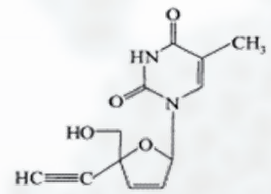
※2021年2月、世界保健機関（WHO）により、国際一般名称が決定されました。

OBP-601（censavudin）

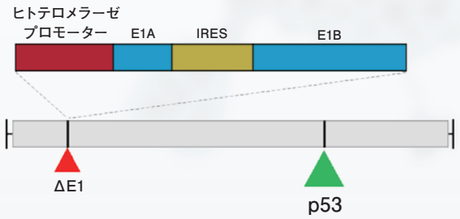
OBP601 は、レトロウイルスが持つ RNA を宿主細胞内で DNA へ逆転写する核酸系逆転写酵素の阻害剤です。これまでに HIV 感染症に対し、強力な効果を発揮することが臨床試験で確認されてきました。一方、その後の研究において、ヒトの遺伝子に含まれるレトロトランスポゾンというゲノムが逆転写酵素によってヒトのゲノムにランダムに転移することが明らかとなりました。この現象が過剰に起こることによって、アルツハイマー病や ALS（筋萎縮性側索硬化症）といった神経変性を伴った神経難病を発症させることが報告されています。OBP 601 は 2020 年 6 月に米国 Transposon 社にライセンスアウトされ、現在 PSP（概要進行性核上性麻痺）、ALS（筋萎縮性側索硬化症）、FTD（前頭側頭葉変性症）のような神経変性疾患治療薬として、世界で開発が進められています。



OBP-601の遺伝子構造



OBP-702

OBP- 702は、テロメライシン（OBP- 301）に、がん抑制遺伝子であるp53を搭載した次世代テロメラシンです。テロメラシンの特徴であるがん細胞を破壊する機能に加え、OBP-702はがん細胞の中でp53蛋白を生成することで、がん細胞を特異的に、そして強力に破壊させる機能を有しています。これまでの研究結果では、テロメラシンの約10～30倍の抗がん活性が示されています。OBP-702 は、治療薬が確立されていないすい臓がんや胃がんの腹膜播種治などのアンメット・メディカル・ニーズへの開発を目指しています。

OBP-702の遺伝子構造